



Vol.022

2025年3月1日発行

OMIYA LIBRARY

今回のご近所さんは、埼玉県立大宮高等学校。学校図書館ってどんなところ？ どんな仕事をしているの？ 司書の穂積絵理子（ほづみえりこ）さんにお話を伺いました！

—学校図書館司書の、一日の仕事の流れを教えてください—

職員室で先生たちと朝会をした後、開館準備を始めます。日中は選書や装備、展示などの事務仕事をしています。本は基本的に書店さんが届けてくれるのですが、店舗に足を運ぶこともありますよ。昼休みや放課後は生徒と一緒に本の返却や配架をしなが、貸出やレファレンス（参考調査）も行います。

—なぜ、司書になろうと思ったのでしょうか。—

子どもの頃は「何になりたい？」という質問が苦手でした。近所の図書館によく通っていて、小学校二年生で図書館司書という職業を知り、志望しました。学校に配属されることもあると聞いたのは採用面接の時、まさか自分が学校で働くことになると思いませんでした。最初は別の高校に勤務し、そこから県立図書館へと異動しました。

—実際に働いてみて、県立図書館と学校図書館の違いは？—

全然違いますね。県立図書館で働いていた時は同僚がいるということが心強かったです。レファレンス対応が面白かったのですが、県立図書館では利用者の方の反応がわからなかったため、学校図書館では生徒の反応を直接見られて嬉しかったです。学校は自分一人で全部プロデュースする必要があり、ひとつひとつ作り上げていくところが魅力です。

—今、学校図書館で働いていて、どんな時にやりがいを感じますか？—

やっぱり一番は利用者が高校生で距離も近いので、成長が見られることですね。選書の時に、生徒の顔が思い浮かぶこともよくあります。生徒からおすすめの本を聞かれるのですが、一度外すと二度と聞いてくれないので責任重大です。その分はまった時は手ごたえを感じます。先生から授業が必要な資料を頼まれた際にも、次の利用に繋げることができるととても嬉しいです。

穂積さんのおすすめ図書

『カラマゾフの兄弟』ドストエフスキ

高校時代に国語の先生からすすめられました。読書感想文を書くために読み始めましたが、あまりのすごさに絶句。語彙力が足りず、感想が書けなくなってしまうほどでした。

『ことばの白地図を歩く』奈倉有里
本屋大賞を受賞した作家・逢坂冬馬さんのお姉さんで、デビュー時からファンです。この本以外にも、創元社の「あいだで考える」というシリーズはすごくおすすめです。



入口の看板はわたしが毎日描いています

—大宮でお気に入りの場所はありますか？—
「本と喫茶 夢中飛行」（高鼻町）が気に入っています。イベントをよく開催していて都合を合わせるのが難しいですが、昨年は一回だけ参加できました。飲食店だと、本校の先生に教えてもらった「NECCO」（下町）というワインバルのお店が美味しかったです。小さめのお店なので、予約は必須です！

—生徒に特に人気の本は？—
新刊コーナーやイチオシ本、本屋大賞や直木賞を受賞した作品はやっぱり人気ですね。家族のために借りていく子も見かけます。昨年は逢坂冬馬の『同志少女よ、敵を撃て』が人気で、一年間ずっと予約が入っていました。

—学校図書館も予約ができるんですね！—
館内にある紙や検索機からだけでなく、インターネットでも予約ができます。予約の本が用意できた時は、担任の先生を通じて紙でお知らせをお渡ししています。アナログですが、一番確実です！

さいきん学校ではポップアップ
ポップ（飛び出すポップ）が流行っているとか。

一冊一冊にフィルム
コートをかけてます。



大宮高等学校
〒330-0834
さいたま市大宮区天沼町2-1-323

図書委員の皆さんにもお話を伺いました！



—大宮高校はどんな高校ですか？—
「楽ではないが楽しい」「とにかく勉強が大変で、長期休みも宿題が多くてつらいです…」「勉強以外は何でも楽しく感じますが、特に部活が楽しいです！」（定番のパレー部の他、クイズ研究部や物理部、ボート部など珍しい部活も！）

—図書委員を選んだのはどうしてですか？—
「勉強と部活で本を読む時間がなかなかとれないけど、本と関わりたいたいと思って選びました」「小中学校から図書委員をやっています」「逆に私は今までできなくてようやく勝ち取れました！」

Q ①図書委員のやりがいを感じることは何ですか？
②好きな本を教えてください
③将来の夢を教えてください

A オガネソン さん（1年生）
①色々な本に触れることができる
②『本好きの下剋上』香月美夜
③仕事でも趣味でも良いのでゲームを作りたい

すだちまる さん（1年生）
①色んな人の好きな本や良く借りられる本が分かるので楽しい
②『方舟』夕木春央
③経営コンサルのプロになること

M. A. さん（2年生）
①本の魅力を伝えられること
②『汝、星のごとく』凧良ゆう
③医者

武田明久 さん（2年生）
①大宮高校の生徒に自分の好きな本を布教できる
②『氷菓』米澤穂信、『爆弾』呉勝浩
③できれば執筆する方で、出版業界に携わりたい

しよっぱー さん（2年生）
①当番や本の整理を通して自分が今まで知らなかった本に触れること
②『屍人荘の殺人』今村昌弘、『チ。』魚豊
③たくさん本や漫画に囲まれた生活をする

おまけ・図書館担当の高宮城先生に高校生に読んでほしい本を聞いてみると…

とにかお人好しのフランス人が騒動を巻き起こす遠藤周作の『おバカさん』がおすすめです。

図書委員の中には、高校生直木賞（※）に参加が決まった生徒も！勉強が大変な中、部活や推し活など楽しいことを見つけたら頑張っている様子が印象的でした。

※高校生直木賞とは…
全国から高校生が集い、直木賞候補の中から「今年の一作」を決める試みのこと。

※高校生直木賞とは…
全国から高校生が集い、直木賞候補の中から「今年の一作」を決める試みのこと。

※高校生直木賞とは…
全国から高校生が集い、直木賞候補の中から「今年の一作」を決める試みのこと。

※高校生直木賞とは…
全国から高校生が集い、直木賞候補の中から「今年の一作」を決める試みのこと。

※高校生直木賞とは…
全国から高校生が集い、直木賞候補の中から「今年の一作」を決める試みのこと。

「地図から消えてしまった 我が故郷、大宮市に」
 さいたま市(旧・大宮市)出身の作家、萩原浩の『誘拐ラプソディー』はそんな言葉から始まる。

大宮市が合併によりさいたま市になることを知った萩原が、大宮市について書き残したいと思い出版された本作。主人公の伊達秀吉(だてひでよし)は前科・借金持ちで、人生に行き詰まって自殺をしようとするがその勇気もない。そんなとき、乗っていた車に忍び込んできた子ども・伝助(でんすけ)の家がかなりの裕福だと知り、誘拐を思いつく。しかし、実は伝助は埼玉県南部を牛耳るヤクザ・篠宮(しのみや)組の一人息子で、秀吉はヤクザや警察、しまいに香港マフィアからも追われる羽目に。

コミカルな文体で描かれるドタバタ逃走劇は、大宮だけでなく浦和、岩槻、七里と埼玉県内を駆け巡るため、なじみがある人にとっては見覚えのある風景が次々と登場する。いつも何気なく歩いている大宮駅の長いコンコースも、本作を読んだ後はちよっと特別な場所に思えてくるはずだ。ちなみに、ナナサトをシチリと読み間違えるネタは身に覚えがあるので、地元あるあるかもしれない……。

もちろん秀吉と伝助の年齢をこえた絆にもホロリとする。武器を持ったマフィアに囲まれたり、警察とのカーチェイスに巻き込まれたり、散々危ない目に遭いながらも無邪気で明るい伝助と、その姿に弟を重ね、次第に情を抱いてしまう秀吉。兄弟のようであり、友人のようでもある二人の行く末を、ぜひ見届けてもらいたい。



取り扱った本
 『誘拐ラプソディー』(双葉文庫)
 萩原浩/著
 双葉社 2004年

大西民子の一首

一日の仕事が終わわり、更衣室でロッカーに事務服をしまおうとき、職場用につくっている別の顔も一緒にしまおうような気持ちになりました。この頃の民子は、浦和の県立図書館で勤務していました。

事務服をロッカーにしまひその奥に
 脱ぎたる顔の一つもしまふ
 『花溢れぬき』より

大宮公園駅脇の踏切を渡ってすぐの場所に、東北本線を望む桜並木があります。枝ぶりはまるでトンネルのように通る人や車を包み込み、花びらは電車の音に呼応するように舞います。



大宮公園駅の桜



名言

それは安易な理由でした。数十年前の春、志望大学に合格できず失意の底に私はいました。渋々通い始めた大学では程遠い毎日。何一つやる気になれません。唯一の救いは初めてのオリエンテーションで友達ができただけのこと。ある日、「第二外国語の選択、どうする？」と友達に聞かれました。選択肢はドイツ語かフランス語のどちらか。「うーん、フランス語は発音が難しそう。一緒にドイツ語にしよう」そんな理由で簡単に決まりました。無事に登録が済み、ドイツ語の講義が始まりました。いつも挙手する友達の隣で、私はうたた寝ばかり。ぼんやりしながらも教授が繰り返す「霧の中」という言葉が耳に残りました。しばらくして、ふとテキストを読み返し、それがヘッセの詩だと知りました。そして気付いたのです。霧の中にいるのは私だ！ と。

不思議だ、霧の中を歩くのは！
 どの茂みも石も孤独だ。
 どの木にも他の木は見えない。
 みんなひとりぼっちだ。

そこには自分の心境を確かに表現してくれる安堵感がありました。理解や共感、慰めと言い換えることができるかもしれません。やさぐれた心が少し軽くなった気がしました。時間と共に痛みは和らぎましたが、今も時折、霧の中に迷い込むことがあります。そのたびにこの詩をそっと思い出すのです。



紹介した本
 『ヘッセ詩集』(新潮文庫刊)
 ヘッセ/著 高橋健二/訳
 新潮社 2014年

書庫の本



Xではイベントやスタディコーナーの待ち人数など大宮図書館の情報を日々お伝えしています。ぜひ、フォローしてみてくださいね！
 この刊行物の書影画像はBOOKデータASPから引用しています。

わたしのすきなほん

図書館に来て、お目当ての本がなかったとしても、そのまま帰るのはもったいないです。図書館にはたくさん本があります。ために棚を見渡してみましょう。いろんな色の背表紙が並ぶ中で、ふと目にとまる本はありませんか？ そんな時は迷わず手に取ってみてください。もしかすると、その出会いは一生ものかもしれませんよ。



紹介した本
 『夜のあいだに』
 テリー・ファン & エリック・ファン/作
 原田勝/訳
 ゴブリン書房 2019年

私の場合は、『夜のあいだに』という絵本との出会いがありました。表紙は緑色で、空には美しい月が昇り、フクロウの形をした荘厳な木が少年を見下ろしています。繊細なイラストに何か惹かれるものがありました。うっすら暗い幻想的な雰囲気は小さなお子さんからしたら少し怖いかもしれませんね……。絵本の舞台はグリムロック通り。ウィリアムが朝起きて通りに入るたびに町の木々がいろんな動物の形に大変身します。夜のあいだに何があったのだろうか？ 次は何の動物がでてくるのかな？ そんなウキウキ感が味わえます。あやしげな世界観とストーリーを、ぜひ楽しんでいただきたいです。不思議な出来事を通じてウィリアムが何を得て、町はどう変化していくのでしょうか。読後もしばらく余韻に浸れるうえに、何度も読みたくなる一冊です。



紹介した本
 『レ・ミゼラブル』(上・中・下)
 ヴィクトル・ユーゴー/作
 岩瀬孝・大野多加志/訳
 偕成社 1993年
 紹介者 蚊取り線香

「翻訳」です。そして「翻訳者」にちなみ、今回のテーマは「翻訳」です。

図書館員は読書好き！ というのが通説であるかは別として、私は本が好きである。そしてマンガも好きである。その中でごく最近手に取ったのはコミック版の『レ・ミゼラブル』(小学館)だった。あまりに感動したので、早速原作を読まねばと思って選んだのは、とても読みやすいイラストも美しい偕成社文庫である。

子どもの頃にダイジェスト版としてかなり省略された『ああ無情』は読んでいたものの、主人公の生涯に通して触れたのは初めてで、その不遇な境遇の中でも失われぬ「善」の心に圧倒された。

飢えた甥たちのためにたった一つパンを盗んだことで十九年も牢獄に閉じ込められ、出所しても冷たく扱われて人を信じるのが出来なくなったジャン・ヴァルジャンは、ただ一人助けられた司教の持つ銀の燭台を盗んでしまう。しかし司教はそれを憲兵には告げずに「彼が盗んだものではなく自分が与えた物だ」とかばってくれる。その心に衝撃を受けた彼の人生は大きく変わる……。

ここまでが大筋だが「まずしき人々」という原題の通り、この物語にはさまざまな人物が登場する。徹底して金の亡者であり他人を騙してもなんとも思わないテナルディエ夫婦はともかく、ひたすら善良で騙されていることにさえ気づかないファンチーヌ、「法」を守ることだけが正しく冷酷なジャベール警部など、それぞれがそれぞれの信念で行動し、ジャン・ヴァルジャンの周りを彩っている。その中で彼は認められてもけつて自分を偽らない。良心に基いて行動するのである。

読んでいる側からすれば「もう少しごまかしてもいいのでは!」「相手が悪いのだからジャンが庇うことないのでは!」とはらはらしながら読み進むのだが、ジャン・ヴァルジャンの正しさは揺るがない。かならず他人が善い方へ向かうのを信じて尽くすのだ。

現代から見れば残酷にも思える当時の風俗もあいまって、よりこの話は心に響くのだなあ……と思う全三巻。翻訳者の方がジャン・ヴァルジャンの物語をわかりやすくまとめ、挿絵もたつぷりのこちら。夜長のお供にいかがでしょうか?

読書バトン

第17回 テーマ 『信念』